

物語の内容を読み取る

●場面の様子や登場人物の様子を思いえがく。

ねらい

名前	組 番	月 日	正答数
			3

問題

次の文章を読んで、あとの問題に答えましょう。

〔陽子(六年生)は地域の卓球クラブの選手。そこに美月(中学一年生)が入部した。美月は卓球をやめたことがあり、陽子は、美月がまたやめるのではないかと思っている。ある朝、陽子は先輩の広海にさそわれて公園に行った。〕

「見せたいものがあるんだ。だまってる。」

「え、なに。」

広海先輩がそれっきり答えず、すべり台のかけからブランコの方角を見ているので、陽子は広海先輩の背中を見ることができた。こうやってすぐそばに立つと、ずいぶん背が高くなったんだな、と思う。陽子も百五十五センチあって、クラスの女子では後ろから三番目なのだけれど、広海先輩は百七十七センチ近くあるみたいで、顔の位置が全然違う。

「来た。つーか、トイレの後ろにかくれたほうがよかったな。ここだとバレるかも。もう遅いけど。」

ひとりごとを言いながら、広海先輩はしゃがみこんだ。

「あ……。」

陽子もしかみがけたのだが、途中でストップしてしまった。来たのは、美月ではないか。白のびたびたのTシャツを着て、髪の毛をぎゅっとおだんごにして、上半身だけ見たら、バレリーナみたいだ。下はトレパンだけれど。

美月はブランコの横にあるベンチに陣取った。背中にしよっていたリュックをそこに置いて、中からなわとびを取り出した。ぶんぶんぶんと、とびはじめた。最初は二重とび、その後、ハヤブサとび、最後は三重とびをやって、失敗したところで、リュックから今度はタオルを出して、顔をふいている。そして、次に取り出したのは卓球のシェイクハンドのラケットだった。

シュッシュシュ。まずはフォアハンドの素振り。続いてバックハンド。四回に一回はバックハンドスマッシュで、大きく振りぬいている。

「あいつさ、クラブに入部してから、毎日ずっとやってるんだ。ひとり朝練。」

※注 1 シェイクハンド：ラケットのにぎり方の一つ。

2 フォアハンド：ラケットを持つ手の側に来た球を打つこと。反対側に来た球を打つのが「バックハンド」。

(吉野万理子「チームみらい」より)

読解のポイント①

だれが、どこで、何をしているのかをとらえよう。

場所Ⅱ公園(すべり台とブランコがある。)

登場人物Ⅱ広海・陽子・美月

広海：「すべり台のかけからブランコの方角

を見ている」

陽子：「広海先輩の背中を見えることにした」

「すぐそばに立つ」

←その後、だれかが「来た」。

広海：「しゃがみこんだ」

陽子：「しゃがみかけた」

←そして

陽子：「途中でストップしてしまった。来たのは、美月ではないか」

↓広海がしゃがんだので、美月のすがたが陽子に見えた。

広海と陽子は、すべり台のかけにかくれている。

前に立っていた広海が先にしゃがんだ。

(1) こことはどこですか。文章中から七字でぬき出しましょう。

(2) 途中でストップしてしまったとありますが、このとき、陽子はどういうことに気づいたのですか。書きましょう。

読解のポイント②

登場する人物の様子や行動を表す言葉に注目しよう。

【美月の様子】

服そう：「白のぴたぴたのTシャツ」「下はトレパン」

リュックから取り出したもの

① なわとび 「二重とび……三重とび」

② タオル 「顔をふいている」

Ⅱあせをかいだ。

③ ラケット 「フォアハンドの素振り……」

美月は、ひとりで朝練をしている。

(3) 見せたいものがありますが、広海は陽子に何を見せたかったのですか。次の文の□にあてはまる言葉を文章中からぬき出しましょう。

が、ひとりで真けんに

をしている様子。

物語の内容ないようを読み取る



- (1) すべり台のかげ
(2) 例 美月が公園に来たこと。
(3) 美月・朝練

- (2) あとに「来たのは、美月みづきではない
か」とあります。
(3) 最後に広海ひろみが「あいつさ、……毎日
ずっとやってるんだ。ひとり朝練」
と言っています。

物語の内容を読み取る

月 日 年 組 番

名前

正答数

5

マーク



次の文章を読んで、下の問題に答えましょう。

「うちゅう飛行士になりたいけれど算数が苦手な潤は、ある日、自分と同じように星の好きなおじさんに出会う。」

算数の中に、星のかがやきなんてあるもんか。

数字も、数式も、ちっとも美しくなんかいい。ただたいくつで、つまらないだけだ。

① ぎゅつと口をむすんだまま下を向いている潤を見て、おじさんが言った。

「ちよっときみの筆箱を出してみてるかい。」

② 「……えっ？」

「その中に、うちゅうのひみつがかくれているから。」
うちゅうのひみつ！

いったい何を言ひ出すんだろう、このおじさん……。不思議に思いながらも、潤はかばんの中をさがしはじめた。潤の筆箱は、一年生のときから使い続けているマグネット式の両面筆箱だ。

「ほら、その筆箱の裏側のふたを、開いてごらん……。」
おじさんのゆっくりとした、おだやかな話し声に、潤は何だかばんやりとした気持ちになった。そうしておじさんに言われるがまま、③ うちゅうのひみつのとびらを聞くように、筆箱のふたをそっと開けた……。

けれども、筆箱の中に入っていたものは、いつもの見慣れた三角定規だけだった。

潤はとてものがっかりして、④ なんのへんてつもない小さな三角定規をじっと見つめた。そのとき、

「その三角定規の内角の和は、何度になる？」

と、おじさんが聞いてきた。

「え!? ええと、一八〇度でしょう？」

「その通り。」

それからおじさんは、ゆっくりと右手を上げて夜空を指差した。

「それじゃあ、あの『冬の大三角』の内角の和は？」

「もちろん一八〇度だよ。」

「そう。きみの筆箱の中にある小さな三角定規の内角の和も、あの広大な夜空に広がる三角形の内角の和も、等しく一八〇度というわけだ。⑤ それはなんて美しいことだろう、と思わないか？」

(かんのゆづこ「とびらの向こうに」より)

① ぎゅつと口をむすんだまま下を向いている潤とありますが、この様子から潤のどのような気持ちがわかりますか。次から一つ選びましょう。

- 1 算数を前向きに受け入れられない気持ち。
- 2 算数を好きになろうと決意する気持ち。
- 3 算数が苦手な自分はずかしい気持ち。

② 「……えっ？」とありますが、このときの潤の気持ちとしてふさわしいものを、次から一つ選びましょう。

- 1 意外なことを言われてとまどっている。
- 2 勝手なことを言われておこっている。
- 3 無理な要求をされてこまっている。

③ うちゅうのひみつのとびらを開くようにとありますが、このような潤の気持ちを表す言葉としてふさわしいものを、次から一つ選びましょう。

- 1 反省
- 2 期待
- 3 あきらめ

④ なんのへんてつも見つめたとありますが、このときの潤の気持ちを表す言葉としてふさわしいものを、次から一つ選びましょう。

- 1 いかり
- 2 おそれ
- 3 失望

⑤ それはなんて思われないか?とありますが、おじさんはどのようなことを「美しい」と言っているのですか。□に入る言葉を文章中からぬき出しましょう。

筆箱の中の

と

夜空の

の、

内角の和が等しいということ。

物語の内容 ないよう を読み取る	
(1)	1
(2)	1
(3)	2
(4)	3
(5)	三角定規・冬の大三角